

# 虚子記念文学館投句特選句・令和七年十一月

稲畑廣太郎 選

落葉よく掃かれ虚子館客を待つ  
新潟 安原 葉

日の温み石路の花にも及び来し  
大阪 綿谷千世子

草雲雀真水のごとき空紡ぎ  
岡山 石井宏幸

さよならの次の言葉を繰る夜寒  
大阪 森重深鶴

綿虫やふる里出でず七十年  
徳島 多田まさ子

帰り花日向は人をやさしうす  
兵庫 二瓶美奈子

少しづつ変はりゆく街金木犀  
神奈川 野末トヨ

瀬祭てふ古を呼ぶ新酒かな  
兵庫 吉村玲子

十一月死者みな親し十字切る  
兵庫 岩鼻絹子

大会の後の乾杯冬銀河  
兵庫 武田奈々

（青少年）

# 入選句・令和七年十一月

反戦を詰めたる菊の枕かな	大阪	押見げばげば	大綿のふつと消えゆく宙の穴	京都	西村やすし
冬近し彼のアドレス消せぬまま	埼玉	小田毬藻	大綿の山気緩めるやうに飛ぶ	大阪	須知香代子
老僧の仮の庵にも暮の秋	茨城	富永武司	秋の旅静かな徒弟の「箱根」シャツ	千葉	鹿野川小舟
秋の海死の国閉づる汀かな	富山	三河三可	おはやうという児に案山子振り向かず	石川	白根寿子
紅葉且散る虚子館の句碑の辺に	大阪	多田羅紀子	小鳥来てパントマイムの始まれり	兵庫	岩水ひとみ
時雨るは景の濃淡増しにけり	京都	木村直子	思ひ切りラッパ吹きたる秋の濱	奈良	堀ノ内和夫
殉教の島の盛りの石路の花	徳島	奥村 里	露寒にココアの香る孤独かな	大阪	深森明鶴
石路咲くや狭庭の昔語るかに	兵庫	中村恵美	短夜や帰るけものと来るけもの	三重	瀬川琴女
芝居跳ね外は夕闇虫時雨	兵庫	片桐由美子	落葉掃く二時間前に掃きし庭	茨城	杉山 満
天帝の統べる高さや鷹の空	香川	葛原由起	「この道」を友と合唱白秋忌	愛知	海神瑠珂
初冬の夕影揺るぐ無人駅	兵庫	河野ひろみ	熊鈴の行き交ふ径の朴落葉	兵庫	福田光博
鷹渡り空の蒼さの極まりぬ	兵庫	涌羅由美	冬日差し大きなきつねあらはるる	東京	清水ぼっぱ
昨夜雨に葉の艶増せる石路の花	大阪	西尾浩子	曇天を押し上げ帰り花孤高	鳥取	棕 則子
万博の余韻に浸る文化の日	兵庫	奥田好子	天地の間をつなぐ冬紅葉	鳥取	棕 誠一朗
師を偲び今宵は酒を温めむ	香川	三宅久美子	ザックザク落ち葉踏みしめ神の庭	兵庫	松本 敬
切干を戻す厨の日の句	石川	辰巳葉流	十一月の風に交ざりし子規の声	大阪	棕本望生
同じことまた尋ねられ柿を剥く	兵庫	永沢達明	冬晴の学園祭に満つ力	兵庫	深尾真理子
天金の聖書ひもとく年尾の忌	鳥取	前田 千	奔放に散らけし庭の朴落葉	兵庫	日下富貴子
神の旅眼鏡補聴器忘れずに	兵庫	槌橋眞美	自転車を枯木に立てて逆上がり	兵庫	天下明太郎
喜び事あると聞きたり神の留守	兵庫	辻田あづき	母の手に子に戻りたる石路灯	兵庫	足立朱麻
姉真似て手水遣ふや七五三	兵庫	岸川佐江	絶え間なく银杏散りくる下に立つ	兵庫	今井哲子
静けさの館の庭占め落葉敷く	大阪	林 曜子	冬耕や愚痴と言訳混ぜ返し	兵庫	長谷川敬子
しとしとと短き秋を惜しむ雨	京都	山崎貴子	まなうらにふるさとの庭石路日和	兵庫	三木雅子
鳥渡る小諸鎌倉芦屋にも	東京	金谷白道	逆光に詠めぬ碑文や冬日和	兵庫	玉手のり子

汀子碑の背の松青々と冬日和	兵庫	道中義臣	校庭を彩るもみじ額となり	兵庫	恵島京子
甲山背に冬耕の猫車	兵庫	大西美知子	短日をおして出掛ける用もあり	兵庫	恵島祥一朗
柿落葉そばかすつけた赤毛のアン	埼玉	吉田春代	大綿や古りし家郷の父祖の家	兵庫	矢車星風
エプロンのまま呼び止める焼き芋屋	インドネシア	慢鱧	ほのかなる影よ白なる山茶花に	神奈川	進藤剛至
焼きたてのデニッシュの香や蔦紅葉	兵庫	杉浦萌芽			
句帖手に諷詠探る文化の日	石川	辰巳昌彦			
猪道や分水嶺のゆるき川	兵庫	風待ラテ			
冬めいて体育館に鳴るシューズ	静岡	いたまき忖			
冬めきてたちまち人の恋しかり	兵庫	高橋純子			
急用で帰る人あり神の留守	兵庫	藤井啓子			
つかの間の秋惜しむ旅北南	兵庫	安橋興二郎			
冬来るコンビニ珈琲湯気香る	兵庫	高市敦之			
俳句より好む山会文化の日	京都	杉森大介			
雪女郎欠かさぬ美白美容液	兵庫	岩永静代			
久々に汀子句碑読む小春かな	奈良	芳林淳子			
故郷の豊かなみづや紙漉女	愛媛	星月彩也華			
霜月のはじまりの日の漢方茶	神奈川	斉藤苑子			
冬服に女子大人びるクラスかな	兵庫	伊集院秀樹			
審判の笛の音太しラグビー場	奈良	豚々舎休庵			
襟足の黒子引き立つ黒シヨール	滋賀	近江堇花			
家路へと誘うチャイム冬茜	神奈川	小林 心			
浅漬の重し代はりに広辞苑	和歌山	中島紀生			
散紅葉イロハと数へ古希を知る	神奈川	平野孤舟			
秋深し切子に透ける赤ワイン	兵庫	町田葦たか			
冬日和しづかに猛る手話の指	兵庫	武田優子			